


掲載号・キーワード・執筆者	内容
<p data-bbox="147 292 647 320">その 30 (ニューズレター No.97 : 2020.2.13 発行)</p> <p data-bbox="147 339 315 368">「都市の水路」</p> <p data-bbox="147 387 304 416">後藤 隆太郎</p> <p data-bbox="147 435 501 464">(佐賀大学 工学部 准教授)</p>  <p data-bbox="147 711 405 740">写真：大雨時の都市内水路</p>	<p data-bbox="674 292 2096 464">水路は都市の基礎として欠かせない存在です。我が国の都市の多くは水網とともに建設された城下町を起源とし、用排水、舟運、防御や防火等が仕組まれてきました。現在は上下水道（暗渠）が追加され、都市建設時の開渠（水路）の価値が見えにくいともいえますが、大雨時に排水や貯留の役割が顕在化します。加えて、その役割を担保するには樋門等の適切な操作、堆積土等を日頃から取り除く共働作業も不可欠です。</p> <p data-bbox="674 483 2096 608">佐賀などの城下町（町人地・武家地）では、水路の大部分は敷地の奥にあります。筆者らはこれを「内を向く水路」と名づけ（道路沿いなど人目に触れやすい「外を向く水路」と区別）、個々の敷地と水路が視覚および空間的に価値づけられることが大切と考えています。</p> <p data-bbox="674 627 2096 799">令和元年8月の佐賀豪雨では、武雄市や杵島郡大町町、佐賀市等で甚大な被害がありました。低平地都市では外水被害の低減に加え、内水被害への備えが重要であり、都市内水路の維持管理、都市基盤の脆弱な新興住宅地の抑制、災害としなやかに付き合う建物など、低平地都市の特質やその持続をふまえて包括的にまちづくりを考える必要があります。</p>